

## 第一礼拝次第

メッセージ：渡真利彦文牧師  
ライブ配信：郭永東牧師



前奏			
頌栄	540	会衆	会衆
主の祈り		会衆	会衆
プレイズ	「収穫の時」 「荒れ果てたこの世界」	会衆	会衆
聖書朗読	出エジプト記20：1～17 (旧約聖書 p126)	司会	司会
祈禱		司会	司会
賛美	聖歌325	会衆	会衆
メッセージ	「神を礼拝する」	牧師	牧師
祈禱		牧師	牧師
賛美	234A	会衆	会衆
献金			
報告		司会	司会
頌栄	新生672b	会衆	会衆
祝禱		牧師	牧師



## 第二礼拝次第

メッセージ：アドリアン・アルセ師  
奏楽：郭永東牧師

プレイズ：「Majesty マジェスティ」  
「Glorify thy name 主の名をたたえる」  
「I will enter his gates 心に感謝を持ちながら」  
「Emmanuel インマヌエル」  
「Amazing Grace アメイジンググレイス」



## ファミリー礼拝

聖書：ルカ10：38～42  
メッセージ：「マルタとマリア」

## <巻頭言>

牧師 渡真利彦文

「主はわたしの羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い、魂を生き返らせてくださる。」(詩編23)

聖書の中で一番身近な家畜と言えば、きっと羊と考えられるでしょう。羊を飼う者にとって羊は最愛の動物である。羊は従順であるが、しかし方向を知らず、天敵の前では怖気づいてしまう最も弱い動物である。さらに、意外と知られていないが、自分の体のけがを我慢してしまうその「強がり」である。これがいつも羊飼い泣かせの困った点と聞いたことがある。これらは、羊飼いなる主の前での私たちの姿とよく重なってくる点である。しかし羊飼いはこれを愛し、導く。「群」のごとく、君が立ち、その弱い羊は群れを作る。さらに加えれば、イスラエルでは羊を愛すればこそ、この動物を犠牲にする意味があった。不必要な動物は犠牲にすることはできない。人は羊をささげて神に愛を示し、そして神こそは最愛のキリストを過越しの子羊としてささげられたことを人々は教えられたのである。

出エジプト後のカナン定住の時代にも、農業が中心とはいえ、依然としてダビデのような羊飼いは社会の構成要員であり、神殿のいけにえに羊・山羊・牛は欠かせないものであった。聖書の犠牲の動物は牛、山羊、羊が中心となる。それは清い動物であることが理由である。もう一つの理由として従順であることをあげることができる。牛は屠りに連れていかれるとき、涙を流すともいわれている。イエス・キリストも十字架の死に至るまで従順であられた。